



コスモ・スワール うすだ

一人一人が輝き つながり 未来を拓く

「聞く」と「聴く」

私は、学級担任をしていた時に、子ども達にこのように指導していました。それは「話を聞くことは、人権感覚の第一歩。聞くのではなく、聴く姿勢を大切にしましょう。」と。以前勤めていた学校の若い先生から、私に「座り方がよくなかったり、横になったりしていても聞くことはできますよね。では、なぜ姿勢をよくしなければならないのでしょうか？」という質問がありました。私は、その先生に「子ども達が将来、損をするから。我々教師は、子ども達の幸せな将来を望む存在じゃないかなあ。」と伝えました。なぜ私が、子ども達が将来、損をすると考えているかと言いますと、人は話をする人によって内容を変えるからです。私も、これまで何度か講演会などで多くの方々に話をする機会がありました。しかし、どこでも、同じ熱量で話をするかと言えば、そうでもありません。相槌をうちながら、メモをとりながら、身を乗り出すように聞いてくださる方には、どうしても、いろいろな話をしたくなりますし、用意していた以上の内容をお伝えすることもあります。片や、話をしているのにスマホをいじっていたり、関係のない雑談をしたりしている会場であると、与えられた時間を埋めるように話をしてしまいます。私の話が興味を惹かないような内容であったかもしれませんが、話し手は、聞き手によって内容を変えることは事実です。これから子ども達は、社会科見学の時や先生以外の方から話を聞くことによって、学びを深めることが多くなります。そのような時に、子ども達に話してくださる方々が気持ちよく話し、いつもより充実した話をしてくださることは、子ども達にとって、得なことだと思うのです。また、学びの基本は「聞くこと」にあります。よく話を聞くことができる子は学力が向上しやすいだけではなく、定着しやすいのです。そして、やはり、「耳」だけではなく「目」や「心」を「十」分に働かせて「聴く」ことができるお子さんは、この先の人生を幸せに過ごすことができるのではないかなあと思います。

今、臼田小学校の教職員は、子ども達に学力向上や学力の定着だけではなく、自他の存在を大切にできる子ども達の姿を思い描き、子ども達の「聴く」という力を指導の重点としています。



先日行われた児童総会の様子から

「スキップ」は、歩きなのか、走りなのか問題

廊下を走っているお子さんを見かけると、私は、子ども達に、ケガをする側にも、ケガをさせる側にもなってほしくないと思い「ケガをして危ないよ。」と声を掛けます。すると、希に走りから、スキップに変化させる、お子さんがいます。では、スキップは、歩きなのか？走りなのか？という問題が出てきます。ズバリ、スキップは「走り」です。「歩く」を定義すると、どちらかの足が地面に着いていて、両足が同時に地面から離れることはありません。「走る」を定義すると、両足が地面から離れ、空中に浮遊する瞬間があるという事になります。すると、スキップは、「空中に浮遊する瞬間」があるので、「走る」に分類されます。廊下が長く、広い臼田小の廊下です。走りたくなる気持ちも分かるのですが、自他の為に歩きましょうと声を掛けるのです。

「学ぶということ」

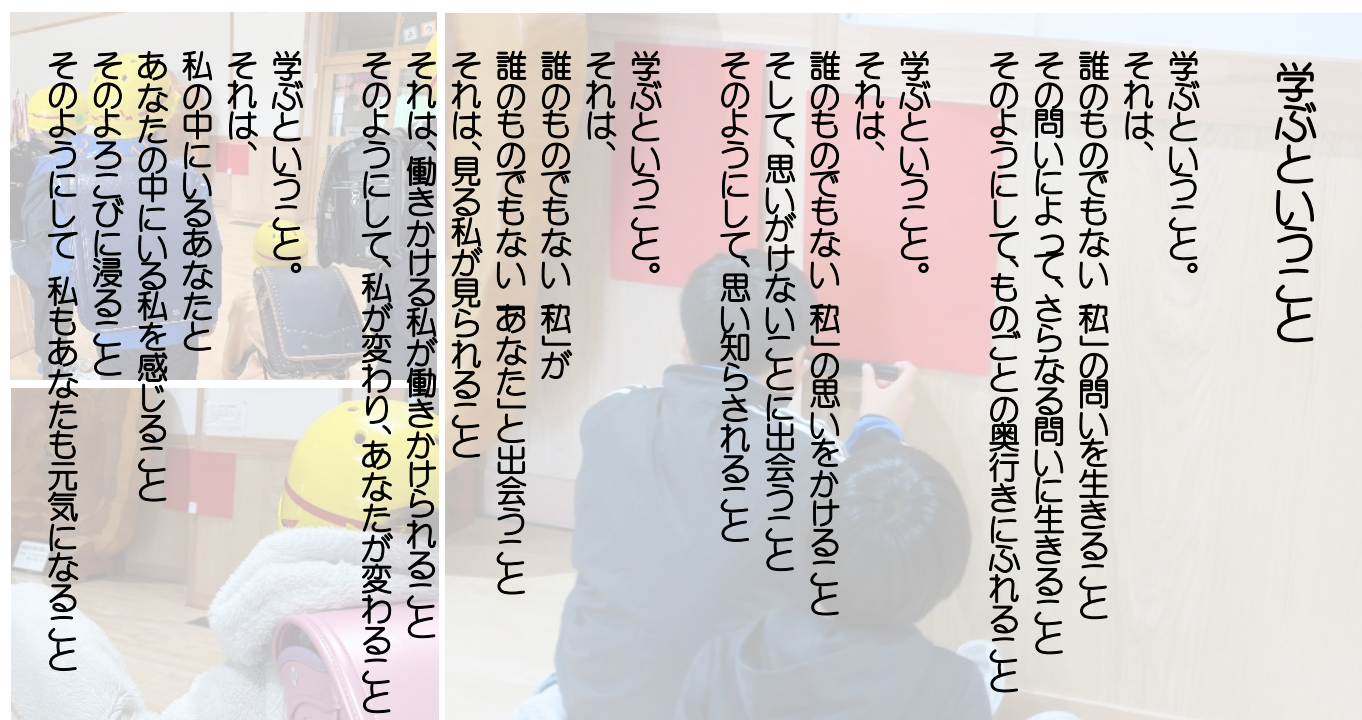
先日、私は6年生の図工の授業に出会いました。その授業の題材は「ここから見ると」。

この学習では、遠近感と作品の場所との組み合わせから生まれる造形的な面白さを生かした子ども達の発想や構想がポイントとなります。

図書館付近で意欲的に試行錯誤している子ども達。「もう少し右の画用紙が高い方がいい。」「もっと本に見えるためにはどうすればいいだろう。」「本の題名があった方が見えるんじゃない。」「題名はもっと太い方がいい。」と次々に対話を重ねながら、思考と判断を繰り返します。他の子ども達の制作の様子も見たくなった私は、校内を一回りしました。どの子ども達の作品も、発想や構想豊かな作品ばかりと感心しながら、元の場所に戻ると、先ほどの作品にラベルが付けられ、さらに図書館の本らしさが増していました。その作品を制作した子ども達も満足そうな表情を浮かべるのでした。

その作品ができた翌日。床に貼ってある「ここから見てください。」の場所に、登校した子ども達が立ち止まって、その作品を見ると、「あっ本当だぁ本に見える。」「こっちから見ると分らないけど、面白い。」「すごーい。」「こっちにもあるよ。」と口々に発しては、笑顔になっていきます。

PTA 総会前に行われた校長講話の際に、『子ども達に向かって「児童の皆さん、どうして勉強するのでしょうか？」と問いかけました。保護者の皆さまは、お子さんからそう問われたときに何と答えますか。私は、「新しい発見に出会うため」と「これからたくさんの人を幸せにするため」だと答えます。』という講話がありました。私もそのように思います。この学びの姿が物語っています。ここで、私の座右の詩をご紹介します。臼田小には、このような姿があるのです。



「黄色いヘルメットに込められた想い」

長く続くものには、人々の想いが込められていると私は考えています。それは黄色いヘルメットにも同じ事が言えます。今から40年以上前から被られ続けている、この黄色いヘルメットは、交通事故でお子さんを亡くされた方の「想い」がきっかけとなっていると聞きました。保護者の方におかれましては、是非、不慮の事故でお子さんの命が奪われた時の親としての心情をお子さんに伝えてください。その話を聞いたお子さんは、自分の命の尊さや2度と得られないことのない将来への希望があるという事と共に、ヘルメットの着用して欲しいと思います。

